

今も残る江戸下町の風情と梅の香りをお楽しみください。

2019 (平成31年)

梅替

花
処
観
処
味
処

すみだ界隈行楽案内之図

江戸中期は治世が安定し、人々の生活にもゆとりが出るようになり、四季折々の花を愛でる近郊への行楽が盛んになりました。なかでも、梅見は春を待ち焦がれる江戸市民には大人気で、市中の梅園には大勢の行楽客が押し寄せ、たいへんな賑わいをみせました。当時の人気梅園のひとつ向島百花園、そして、小村井梅園を復活させた香梅園、さらに、飛梅伝説で知られる亀戸天神社を中心に、梅に因む食事処、老舗和菓子店などの梅情報を掲載しました。

A 梅若伝説コース

木母寺に伝わる梅若丸の恋話は謡曲「隅田川」や小説となって、多くの人の涙を誘いました。

- 向島百花園
- 東白鬚公園
- 隅田川神社
- 木母寺
- 梅若塚

B 東京スカイツリー® 散策コース

東京スカイツリーの周辺は、かつて小梅村と呼ばれ小梅橋や小梅児童遊園など名称が今も残ります。

- 東京スカイツリー
- 旧小梅村
- 牛嶋神社
- 桜橋
- 隅田公園

C 天神様と香梅園コース

「天神橋を渡ってお参りすると御利益がある」という古くからの言い伝えにしたがって歩きます。

- 伏見稲荷神社
- 香取神社(香梅園)
- 錦糸町駅
- 亀戸天神社



- | | |
|---|---|
| <p>1 向島餅屋</p> <p>毎月15日に販売する梅餅を大根の砂糖漬に挟んだ「梅餅」5個入り1000円が人気。
墨田区八広2-37-8
■交通: とうきょうスカイツリー駅
■営業: 9時~18時 @火曜、祭日
☎03-3617-2373</p> | <p>2 言問団子</p> <p>江戸時代から続く老舗。黄(青梅)と白(梅)の二色団子が入り。
墨田区向島5-5-22
■交通: とうきょうスカイツリー駅
■営業: 9時~18時 @火曜
☎03-3622-0081</p> |
| <p>3 森八本舗</p> <p>梅を砂糖漬けにし、種を除いて白あんを詰め、和菓子(梅山)1個200円(税別)は上品な甘さ。
墨田区栗平1-3-6
■交通: とうきょうスカイツリー駅、押上駅
■営業: 9時~18時 @第3月(3.9.12月)休
☎03-3622-0006</p> | <p>4 かめばん</p> <p>「小村井あんぱん」150円(税別)は、香梅園梅まつり(土・日)と店頭での期間限定販売。
墨田区立花2-1-11
■交通: 東あずま駅
■営業: 6時半~19時 @月曜、火曜
☎03-3619-2223</p> |
| <p>5 亀戸升本</p> <p>幻の江戸野菜 亀戸大根 あざり餅が人気。
江東区亀戸4-18-9
■交通: 亀戸駅、日本橋駅、土曜・日曜・11時~20時 @亀戸駅
☎03-3637-1533</p> | <p>6 山長</p> <p>梅の季節限定販売の「梅大根」(170円)は、昔の甘味師が作る1個入りの。
江東区亀戸3-60-21
■交通: 亀戸駅
■営業: 9時~19時 @火曜
☎03-3681-4975</p> |
| <p>7 亀戸本すずしる庵</p> <p>創業明治38年。保存料・合成着色料を一切使わず(洋当)一善人製が評判。
江東区亀戸2-45-8
■交通: 亀戸駅
■営業: 8時半~19時 @なし
☎03-5626-3636</p> | <p>8 佐野みそ 亀戸本店</p> <p>紀州産紅梅の完熟した実だけ、まるかやく漬けた「あんぱん」あどき梅餅。
江東区亀戸3-6-4
■交通: 亀戸駅
■営業: 日・土 9時~19時 日・日 10時~19時 @なし
☎03-3685-6111</p> |
| <p>9 船橋屋</p> <p>梅しそや花びら(うす餅)の入った天神橋みつ(560円)は季節限定販売。
江東区亀戸3-2-14
■交通: 亀戸駅
■営業: 9時~18時 (L.O.17時) @なし
☎03-3681-2784</p> | <p>10 若福</p> <p>天神様境内に佇む隠れ家。東の天満宮ならではの梅とちろろはおおめ。
江東区亀戸3-6-4 亀戸天神社境内
■交通: 亀戸駅
■営業: 11時~14時 @なし
☎03-3685-5888</p> |

木母寺と梅若伝説

貞元年間(976~100)の草創とされる天台宗の寺。平安中期、京都北白川に住む吉田少将推房の子「梅若丸」が、信夫蔵大といふ人買いに連れられる途中、12歳で亡くなった。高僧忠阿闍梨が彼のために塚を築き、柳を植えて供養した。慶長12(1607)年、前の関白・近衛信尹が「梅」の異体字「梅」を「木」と「母」に分けて書き、以来「木母寺」が寺名となった。

向島百花園

遊歩道「梅の道」が、隅田川沿いに伸び、隅田公園、牛嶋神社、小梅村、梅屋敷、香梅園とつながる。向島百花園は、江戸時代から続く老舗。黄(青梅)と白(梅)の二色団子が入り。

香梅園

天神様境内に佇む隠れ家。東の天満宮ならではの梅とちろろはおおめ。江東区亀戸3-6-4 亀戸天神社境内

亀戸梅屋敷

江戸時代初期、亀戸天神社の北東、約320mの所に大きな梅園があり、中に「清香庵」という屋敷があったため、一般に「亀戸梅屋敷」と呼ばれていた。園内には、丈はそれほど高くないが、枝が四方に勢よく伸び、東西では十丈あまり、おおよそ30mにもなる梅の木があり、枝の一部は、いったん地中に入り、再び地表に出て、幹と見紛うほどの威容を誇っていた。その見事な姿は龍が臥せたように見えることから、水戸光圀(黄門)が「臥龍梅」と命名。さらに人気を博した。梅園は歌川安藤(広重)の名所江戸百景「亀戸梅屋敷」をはじめ、数多くの名所記に描かれていた。現在は、場所を示す石碑が残るだけである。

あたたかく一人へ街へ

TOBU **ひがしん** 東京東信用金庫

☎03-5610-1111
<http://www.higashin.co.jp>

梅は百花にさきがけて咲く